

2017年度 第1回拠点・アライアンス博士課程学生グローバル研究力養成道場 “1st Doctoral student course “Global Research Skill Training Dojo” 実施報告

平成30年2月23日14時から16時半まで東北大学多元物質科学研究所、物質・デバイス共同研究拠点、人・環境と物質をつなぐイノベーション創出ダイナミックアライアンス主催、コア連携ラボセンター共催の、第1回 拠点・アライアンス 博士課程学生グローバル研究力養成道場 (“1st Doctoral student course “Global Research Skill Training Dojo”)を、多元研で開催しました。

“拠点・アライアンス 博士課程学生グローバル研究力養成道場”は、共同研究拠点、アライアンス活動を通じた若手陣再要請プログラムの一つとして、大学院博士課程学生の国際研究力の向上、特に英語での発表ならびに発表内容に基づくディスカッションやディベートのスキル向上を目指した取り組みです。博士課程学生と海外著名研究者とが、1対1、1対2でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、通常の学会発表などでは経験できない、踏み込んだ議論、発表・議論などから見出した新たな課題に対する英語での論理的思考に基づく議論などを通じ、グローバルに活躍できる研究力を有する人財養成を目的としています。

今回、拠点・アライアンス活動にも関連しているデータ科学国際共同大学院キックオフシンポジウムで来日・来学頂いたケースウエスタンリザーブ大学 Vice Dean for Research, School of Medicine Mark Chance教授、Director, SDLE Research Center&Faculty Director Roger French教授に御来研頂き、別紙記載のように先日公聴会を終え、4月から海外留学ならびに博士研究員として活躍する博士後期課程3年生の伊藤優志君、菅井祥加さんと45分の、来年度の留学を検討している博士後期課程2年生の稲垣雅仁君と30分の、そしてフランス/ボルドー大学とのダブルデグリープログラム博士後期課程1年生のWijak YOSPANYA君とも30分の1対2ミーティングを実施した。

予定時間をオーバーするほどディスカッションが盛り上がり、終了後両教授から皆さん優秀でレベルが高いが、英語でのプレゼンテーション、ディスカッションにもう一工夫の必要性を感じた。今回のミーティングを通じ、短い時間ではあったが画期的にそのスキルは向上し、ビックリした。とのお褒めの言葉を頂いた。さらに参加者学生全員が、外国人教授との英語での1:2ミーティングは極めてタフであったが、とても有益で充実した時間を楽しみ、自分の研究力向上に役立ったとの感想を伝えてくれました。

今後も拠点・アライアンス活動を活用した博士課程学生グローバル研究力養成道場を実施し、次世代若手人財養成に取り組んでいきたい。

今回、本企画を強力にサポート頂いた、東北大多元研アライアンス事業に深く感謝いたします。

